

「総合型地域スポーツクラブ」って、どんなもの？ どうやってつくるの？



▲2017年10月に行われた市内の総合型地域スポーツクラブの全体交流会の様子(写真提供/市スポーツ振興課)



昨年7月31日に行われた「とみあい総合型クラブ(仮)」の地域説明会には、会場いっぱいの参加者が訪れました



探検隊メンバーの取材メモ

地域の方々とつながりが持てる「総合型地域スポーツクラブ」の素晴らしさを感じました。残念ながら私の住む地域には、まだないので、もし設立の動きがあれば私も関わりたいです！
緒方さん

スポーツを中心に、さまざまな種目が楽しめる、地域の方々の笑顔が広がっていく場所だなと思いました。三角さんのリーダーシップの下、富合にどんなクラブができるか楽しみです。久保さん

「総合型地域スポーツクラブ」のような恒久的な組織を立ち上げるのは、相当な努力と多くの人の協力が欠かせないと感じました。設立説明会の参加者も多く、地域の関心の高さに驚きました！末藤さん



クラブ設立に込めた思いを語る三角さんの熱意に、私たちも感動を覚えました！

What's まちづくり

2018年
9月14日号
掲載



私たちが聞いてきました！

探検隊メンバー(左から)
末藤 藍さん
久保 恵美さん
緒方 幸江さん

校 区や地域で特定の種目や世代に限らず、住民が好きな種目やプログラムを選び、それぞれの楽しみ方やレベルに応じて活動できる「総合型地域スポーツクラブ」。生涯スポーツ社会の実現を目指す国の施策として、全国でクラブの設置が進んでいます。

現在、2020年春の設立を目指して準備を進めているのが「とみあい総合型クラブ(仮)」です。富合校区体育協会長の三角陽司さんは、設立準備委員会の委員長として中心的役割を果たしています。

「富合は、旧町時代からスポーツが盛んな地域柄で、季節ごとに各種競技の大会を開いていたほどでした。しかし、近年は大会もなくなり、スポーツを通じて住民が交流する場が減ってきていました。そこで、住民の健康づくりや小学校の部

地域住民の健康づくりと交流の場

活動小化に伴う受け皿づくりなどを目的に、2015年からクラブ設置に向けて検討を続けてきました」と経緯を振り返ります。

スポーツ以外の種目も取り入れた「富合型」に

また、同校区では毎年、小中学生を対象にした書き初め大会を開くなど文化活動も盛んです。そうした校区の特性を生かし、あえてクラブ名に「スポーツ」を入らず、文化的な種目に取り込む「富合型」を目指しています。総合型地域スポーツクラブ設立のためには、設立を目指す校区や地域で中心となるメンバーで設立準備委員会を立ち上げ、県体育協会の支援を受けながら組織づくりを行います。現在、富合では月1回の設立準備委員会でクラブの在り方



富合校区体育協会
会長 三角陽司さん

市内に21クラブ。「クラブアドバイザー」が設立を支援

総合型地域スポーツクラブは、「誰でも、いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツを楽しめる場です。高齢化や小学校部活動の社会体育への移行が進む中、その重要性が増えています。現在、市内に21のクラブがあり、設立に当たっては県体育協会の「クラブアドバイザー」が支援しますので、気軽にお問い合わせください。

総合型地域スポーツクラブに関するお問い合わせは
熊本市スポーツ振興課 ☎096(328)2724、熊本県体育協会 ☎096(388)1581



校区防犯パトロールを体験



見守り活動に行きます！



幹線道路の交通量や危険箇所は、現場に足を運んで実感！

地域の防犯は「自分事」

最近、子どもが巻き込まれる事件が多く、胸を痛めています。自分事として捉え、地域の防犯活動に参加しなければと感じました。(永田さん)

子どもや高齢者が地域の皆さんに守られていることを再認識しました。職場の前が通学路なので、私も朝からあいさつをしてみます。(高見さん)



体験後の感想

見 守り活動だけでなく、朝からは小学校の校門前でのあいさつ運動にも参加する向山校区防犯協会長の石坂敏明さん。緑のベストを着て活動している子どもも安心してあいさつしてくれるようになりました。防犯で大切なのは、地域の人が顔見知りになることと話します。



「青バト」と緑の防犯ベストが校区の安全・安心の目印！

私たちが活動しています！



向山校区防犯協会
会長 石坂敏明さん

「顔見知り」になることが地域の安心・安全の第一歩

向山校区は中心市街地にも近く、近年、マンションや戸建て住宅が増えています。そうした新しい住民と「顔見知り」になるのが重要と考え、見守り活動を始めました。防犯はもちろん、地域の景観や衛生環境を保つため。防犯はもちろん、地域の景観や衛生環境を保つため。防犯はもちろん、地域の景観や衛生環境を保つため。

探検隊が体験たい！

2018年
7月20日号
掲載

誰もが安心して暮らせる「まち」に

幼 い子どもたちを狙った犯罪が後を絶ちません。熊本市でも「わいせつ・声掛け」事案は増加傾向です。また、高齢化が進むにつれ、認知症の高齢者の徘徊なども問題になっています。そうした地域で起こる犯罪や事故、災害等の被害を未然に防ぐために活動しているのが「防犯協会」です。中央区向山校区1町内で実施されている見守り活動に、探検隊メンバーの永田文許さん、高見睦代さんが参加しました！

防犯協会のことは知っていますが、一体どんな活動をしているの？



探検隊メンバー
永田 文許さん 高見睦代さん

私が暮らす校区の隣でどんな地域活動をしているのか楽しみです！



今日も張り切って行こう！



永田さんと高見さんも真剣な面持ちで説明を聞きます

向

山校区1町内では、約20年前から校区防犯協会を中心に見守り活動を開始。毎月10日・20日の2回(17時〜)実施しており、常時12〜13人のメンバーが参加します。取材当日は、年1回開催される子ども会との合同見守り活動。パトロールの際の注意点など、説明を受けて、いざスタート！

自助・共助の精神で地域の安全を守る組織

熊本市防犯協会は、「自分たちの安全は自分たちで守る」「地域の安全は地域で守る」という考えの下、原則として小学校区単位で結成されています。それぞれ自治会やPTA、青少年育成協議会などの地域団体、所轄の警察署、行政と連携しながら、夜間パトロールや子どもたちの安全・事故防止のための見守りを行っています。

■「熊本市防犯協会」に関するお問い合わせ
☎096(328)2397(熊本市生活安全課)

交通安全指導を体験



雨の中、横断旗を手に子どもたちを誘導する探検隊メンバーの末藤さん(写真右)



▶渡邊さんいわく、時計、ばんそうこう、携帯電話が「交通指導の三種の神器」。その一つ、時計は両腕にはめて、一方はストップウォッチとして使用。信号の残り時間と児童たちの歩く速さを見ながら、「横断させる」「止める」の判断を行うためです

取 材日はあいにくの雨。しかし、「雨の日だからこ危険がいっぱい。通常以上に目配りが必要」と力合西校区交通指導員の渡邊弘幸さん。小学校の登校日は毎日通学路に立ち、たとえ雨の日でも「死角を作らないように」と、レインコートのフードもかぶらずに指導に当たります。また、滑りやすく、転倒によるけがも多い歩道橋を利用する児童には、その都度、注意を呼び掛けます。



渡

邊さんは毎日、通学路の横断歩道を渡る小学生登校を見届けると、道路に向かって深々と一礼。交通安全指導を7年間続けていますが、今でも緊張する。その分、終わるとホッとします。そんな渡邊さんたちの活動は児童たちにもしっかりと伝わり、時には感謝の手紙をもらうこともあるそうです。



◀2学期の終業式の日には、サンタクロースのコスチュームで交通指導を行うのが恒例

体験後の感想

防犯にも役立つ交通指導

各校区に交通指導員を設置するのは、防犯にもつながると思います。季節や天候で危険箇所も変わるので、日報への記録も大切ですね。若手の育成が課題とのことでしたが、今、見守ってもらっている子どもたちが大人になり、交通安全指導を受け継いでくれたらいいですね。(末藤さん)



私たちが活動しています!

熊本交通安全協会
交通安全協力会・力合西支部長
林田 昭人 さん



新設校区で進む宅地化と交通量増 地域の各種団体や保護者も協力

平成26年4月に新設された力合西小。宅地化が進み、幹線道路の交通量も増えています。交通安全協会と交通指導員は、自治会、老人交通安全協会と連携。毎週月曜には、子ども会、防犯協会等と連携。主要な交差点や横断歩道で指導員も参加し、主要な交差点や横断歩道で指導に当たっています。通勤・通学中の皆さんの目にも留まり、交通安全を意識してもらえれば幸いです。「地域の安全・安心を守る」ために、若い世代にも参加していただきたいですね。



熊本交通安全協会
交通安全協力会
渡邊 弘幸 さん

What's まちづくり

今さら聞けない地域活動の疑問・質問

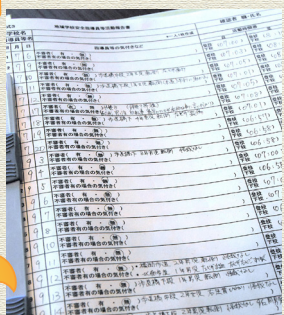
2018年
10月26日号
掲載

悲惨な交通事故を未然に防ぐ活動

県 内で発生する交通事故件数は年々減少傾向にあり、2017年度は53年ぶりに発生件数が6000件を下りました。しかし、小中学生が登下校中に巻き込まれる交通事故は、今後も後を絶ちません。子どもたちが犠牲になる事故をなくそうと、日々、校区の通学路に立ち、交通指導を行っているのが、熊本市から委嘱を受けた「交通安全指導員」と警察と連携する「交通安全協会」です。南区力合西校区の活動に、探検隊メンバーの末藤藍さんが参加しました。

地域の子どもの安全な登校をサポートしているのは、どんな人たちなのか気になります!

探検隊メンバー
末藤 藍さん



▲小学校へ提出するために毎日作成している日報。子どものけがの発生場所や不審者の情報を記録しています



地域の交通安全に尽力し、 熊本城マラソンなどにも協力

熊本市では、各校区に交通指導員を設置。毎月1日・10日・20日の「市民交通安全の日」には、小学校児童の登校時の安全確保を図るために街頭活動することを定めています。また、「熊本城マラソン」のような市の行事に伴う交通整理等へも、積極的に参加してもらっています。

■「交通指導員」に関するお問い合わせ
☎096(328)2397(熊本市生活安全課)

「民生委員・児童委員」 名前は聞いたことがあるけど 何をしている人たちなの?



◀▲「子育てサロン」では、校区内の保育園と連携。参加者からは「同じ年の赤ちゃんを持つママと情報交換できる」など、好評を博しています



▶校区内5カ所の公民館で開催される「ふれあい・いきいきサロン」。それぞれ内容が異なり、参加者を飽きさせない工夫が凝らされています



探検隊メンバーの取材メモ

民生委員・児童委員は、とにかく「大変そう」というイメージがありました。しかし、子育てサロンに参加してみて、委員の皆さんがいざいきと活動している姿を見ると、私たち子育て世代にとって、とても有り難い存在だと改めて感じることができました。 松浦さん

今まで民生委員・児童委員のことをあまり知らなかったのですが、稲田さんの話はとても興味深く、多岐にわたる活躍に驚かされました。各地域に子育てサロンがあるとのことだったので、これからは積極的に参加したいと思います。 松本さん



民生委員・児童委員の皆さんの地道な活動が、誰もが安心して暮らせる地域づくりにつながっているんですね



What's まちづくり

今さら聞けない地域活動の疑問・質問

2018年
9月28日号
掲載



私たちが聞いてきました!
探検隊メンバー(左から)
松浦かおりさん
松本亜沙美さん
怜奈ちゃん

地

域の中で名前を耳にすることも多い「民生委員・児童委員」。しかし、その役割はあまり知られていません。同委員の皆さんは、孤立しがちな一人暮らしの高齢者や子育て家庭、生活困窮者など、さまざまな課題を抱え、手助けを必要とする人々の、身近な相談相手として、各校区で活動しています。

稲田さんが民生委員・児童委員協議会会長を務める花園校区は、柿原や井芹など7つの地区(町内)からなり、いずれも少子高齢化が進む。校区の高齢化率は33.8%と熊本市の

お年寄りから子どもまで! 身近な地域の相談役

平均25.4%を大きく上回っています。現在、同校区には22人の民生委員・児童委員がおり、それぞれの担当地域で個別訪問や独居高齢者の見守り、困りごとの相談などの地域福祉活動に当たっています。

充実のサロン活動で 社会的弱者の孤立を防ぐ

同校区の民生委員・児童委員の活動の一つがサロン活動。月1回開催する「子育てサロン」は、0〜1歳の親子を対象に、絵本の読み聞かせや離乳食講話、ベビーマッサージ講座などを行い、子育てに悩むママに支えを。また、高齢者を対象にした「ふれあい・いきいきサロン」は、校区内5カ所の公民館で月1回ずつ開催。社会福祉協議会や地区婦人部、西保健センターなど、協力して呼び掛けを行い、毎回60人以上が参加するサロンもあります。



「ふれあい・いきいきサロン」では、血圧測定など簡単な健康チェックも

「皆が集う楽しい場を提供し、引きこもる高齢者をなくすのが目的。また、委員も一度に多くの高齢者と話ができるため、個別訪問などの負担が軽減されます」と稲田さん。抱い手不足や、個人情報保護の関係で住民の情報が集まりにくいといった課題もありますが、「子どもから高齢者まで、校区の誰もが安心して暮らせるよう、これからも皆さんの声なき声に耳を傾けていきます」と笑顔で話します。

厚生労働大臣から委嘱された身近な相談相手

熊本市では現在、約1400人の民生委員・児童委員が、地域福祉活動に取り組んでいます。厚生労働大臣から委嘱を受けた民生委員・児童委員には法律に基づき、守秘義務が課せられているため、相談内容等の秘密は厳守します。地域の身近な福祉に関する相談相手として、安心してご相談ください

民生委員・児童委員に関するお問い合わせは
熊本市健康福祉政策課☎096(328)2340